

森の民話茶屋通信

Vol.10

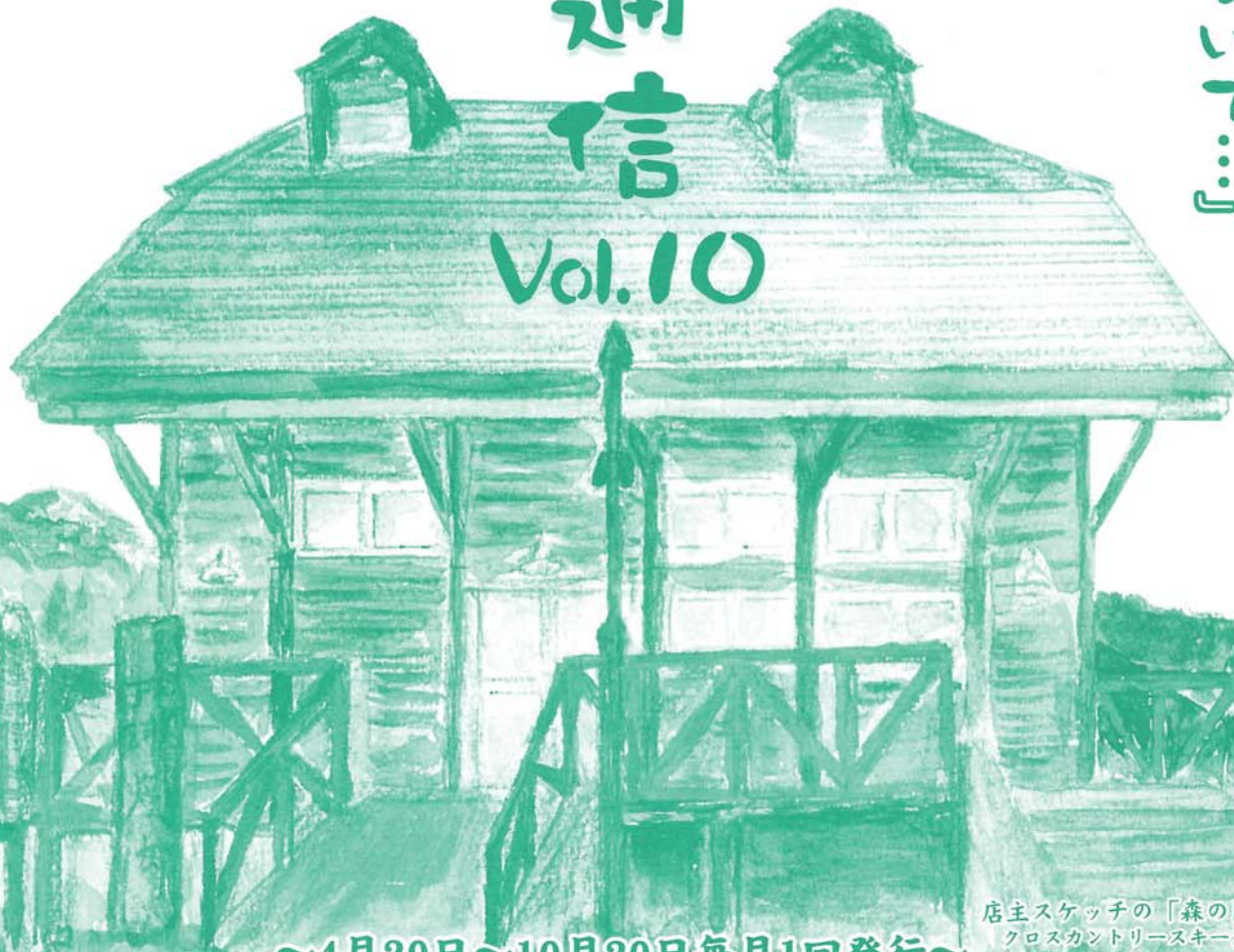
福島県地域づくりサポーター事業
『ふるさとの民話とふるさとの森をつないで…』



本を読んで聞かせてね。



出会いを楽しみに…。



店主スケッチの「森の民話茶屋」
クロスカントリースキーステーション

～4月20日～10月20日毎月1回発行～

発行責任者／森の民話茶屋店主 後藤みづほ
福島県安達郡大玉村玉井字前ヶ岳国有林7林班 Tel.090-3121-4481

店主が語る！村のオウツ子 Vol.9

自宅に資料館を開設し大正～昭和の暮らしを展示している
八巻市郎さん(83才)・ミイノさん(80才)ご夫妻を訪ねて



手広くお商売をしていらつしやる八巻商会さんの資料館を拝見させて頂きました。ここは大玉村玉井字南町、お店の裏手に名倉山の姿を借景に広い芝生の庭があります。庭は見事に手入れされていて、季節の花がプランターに美しく咲いていました。

玉井の地名の由来にもなった玉井の井戸がその庭続きにあり、ゆかしい趣(おもむき)に溢れています。資料館を作った八巻市郎さんとミイノさんは今は、息子さんご夫婦にお店を譲られて、悠々自適の毎日をお過ごしです。

Q／八巻家のルーツを教えてください。
市／元々の先祖は伊豆半島の(にら)の八巻兼隆までさかのぼることが出来ます。治承四年(1180年)八月の源頼朝旗揚げに討たれ、山梨、新潟、山形の高島、福島県伊達郡に移り、この玉井に住んだという所まで調べたんです。

Q／その方は何代前になるのですか？
市／四代前だナイ。

Q／(た)って行くに興味深いことがあるでしょうね。
市／その四代前の当主が何故この玉井にきたのか謎なんです。でもその時、槍と刀とそれに龍、鷹、虎を描いた三本の円山応挙(源応挙)の掛け軸を持って来た。という伝えが残っていて…これがそうなんだゾイ。

(と云って立派な掛け軸を持って来て見せて下さる)
Q／「何でも鑑定団」に出したら凄なお宝ですね。
市／いやいや、源応挙とあるんだが、円山応挙の事なんです。槍と刀は向こうの資料館に置いてあるんです。

Q／資料館を作ったきっかけは？
市／私の父親は已市と言って、婿養子に入った人なんですが、実に良く働く人だった。その頃八巻家はろくに田んぼも無く、手取り取り稼いでいたんです。でも『何ぼ稼いでも二人分は稼がない』と…考えてナイ。大正六年(1917年)に東京の製造工場から仕入れたバリカンを持って、仕事を始めたんです。

Q／バリカンですか。
市／そう。当時は床屋になんて行けなくて、みんな自分の家で髪を刈ったんです。だからどの家でもバリカンは必需品だったんです。遠くまで売りに行ったんです。



Q／どの辺まで？
市／東北はもとより、新潟、北海道までも商いの範囲だったから、最盛期には百人も売り手さんを抱えていました。

百人の売り手さんとその家族を抱えて
Q／百人ですか？主に玉井の男性(ひと)たちで？
市／そうナイ。余所の人も少しは居たけど殆どが玉井の男性(ひと)だった。

Q／凄いですね。その男性(ひと)たちがそれぞれの家族を養ったんでしょう？
市／そういうことだナイ。父はとてども几帳面な人で、当時からの記録を大切に残していたんです。

平成八年、父の二十三回忌を記念して、父への尊敬の気持ちから資料館を作った訳です。丁度六十畳の倉庫の二階が空いたもんで、「ここできちんとしておく」ことが大切だと思ったんです。展示品を整理していると周りの人たちが「俺家にこんなものがあるから」と持て来てくれて、次第に数が増えたんです。

周りの人たちも展示品を持って来て…
(ここで夫人のミイノさんとお二人に案内して頂いて資料館に…。入り口に立派な「長持ち」
二代目妻コヨ、佐原家より明治十六年…と表示されている。昔話に出てくるような「長持ち」…)

Q／来館者は多いですか？
市／開館直ぐに福島民報新聞に掲載されて、その時は大勢来しました。

Q／八巻商会の記録は？
市／これです。(ガラスケースに納められていた和紙の綴り、墨跡もくっきり)
大正三年からの日記帳、金銭出納帳、几帳面で達筆な父でした。当時の経済や貨幣価値もわかります。

Q／良く残されていましたね。
市／汗水を流した祖先の心を大切に…と思ってナイ。

Q／こちらの文化刺繍は？
ミ／私が六十五才から始めたものです。いっぱい作品が出来たもので飾ったんです。

市／私は昭和十四年入隊、終戦は北方のウルフ島で迎え、

MAP



その後シベリアに抑留され、昭和二十四年復員するまでの十年間、家内も本当に苦労があったと思います。

ミ／生きていくのかどうかは一年に一回、半年かかって届くハガキだけが頼りでした。市／だから家内の作品も私にとっては大事なものです。

ミ／これは、残り糸で自分でデッサンした作品ですよ。
Q／素敵ですね。世界に一つだけの作品ですね。

大正、昭和、平成と目まぐるしい時代の変遷。村の人々の暮らしの一端と、八巻家の歴史がそこにありました。皆さんも是非一度、資料館にお出かけ下さい。

お二人の若々しい情熱と誠実さが伝わってきて、貴重なお話をたくさん頂きました。私事ながら、一度も会うことの出来なかった義父(広)の名前を、売り上げ表彰の巻物に見つけた時は胸が熱くなりました。



3年目も楽しみましょう!!

—スタッフの意気込み集 パート1—



武田 ノブ子
今年も笑顔でお迎えます。
民話茶屋は最高ですよ。



田中 テル
四季折々の漬物と食材で
お待ちしております。
森の水のお抹茶もどうぞ。



鈴木 イミ子
朝採り野菜で
ぬくもりの味!
健康一番!



後藤 みづほ
民話はどこが懐かしい。
森のカフェ、自然体で
語れるようになりたい
と思います。
お客さまも語って
私たちに聞かせて下さい。



川名 トク子
一度お出で頂いたら
その良さが分かります。
お友達を誘って
お出かけ下さい。
大玉村の水の旨さを
味わって下さい。

添田 栄子
とっても良い所ですから
お出かけ下さい。
オープンの日
(4月28日)には
紅白の餅をまきます。
みんな拾いに来てね!

今年も森の民話茶屋で会いましょう。

今年の桜は例年より二週間も早く咲きました。満開の桜の下での入学式でしたね。地球温暖化?異常気象?と心配する向きもありますが、それはさておき、いつもより良いお天気に恵まれて、今年の桜は一層美しく見事な花色だったように思います。

人たちの一生の節目節目に、季節の花や風、色、香りが心のスクリーンに残って行くものです。今年、様々なスタートを切った方々の胸に鮮やかな桜が消えない事でしょう。

私たち「森の民話茶屋」も今、三年目のスタートラインに立っていますが、私たちの「森の民話茶屋」の色や香りは、森の木々の様々な彩度の緑であり、美味しい水で立てる抹茶の深い緑色と、心静まる香りでしょうか。

大勢の皆さまに愛され、励まされてお陰様で三年目を迎えることができました。

「うつしい時間 うつくしい空間」という「うつくしま未来博」のコンセプトに共鳴し、私たちなりに私たちの地域で具現化しようと思ひで立ち上げた事業でしたが、県や村の深いご理解とご指導により、癒しの場として各地からのお客様を迎え、和やかに交流の輪を広げて参りました。

今年も又、安達太良山の恵みの宝物を、私たちなりにたくさん用意することになりました。心と身体に安らぎの時間を一緒に味わい、再会の約束ができるように...と願いながら、スタッフ一同皆さまをお迎えする準備を進めている所です。

学校五日制もスタートし、地域の中で様々な体験の場が求められている今日です。そんなご家族の方々も是非「森の民話茶屋」にお立ち寄り頂きたいと思ひます。

二〇〇二年四月二十日

「森の民話茶屋」店主 後藤 みづほ

春のGWスケジュール

「森の民話茶屋」でしか味わえないよ!!

4/28(日)	11時～	オープン記念事業 ・餅まき ・抽選会 (アットホームおおたま入浴券)
29(月)	11時～	つきたて餅の日
5/ 3(金)	11時～	手作り豆腐の日
4(土)	11時～	つきたて餅の日
5(日)	11時～	あだたらの蕎麦 (限定50食)
6(月)	11時～	かおりちゃんのチーズケーキ (12ピース限り)

森の民話茶屋

隣組
情報!



福島民友新聞4/6

この程、ふくしま県民の森「フォレストパークあだたら」(運営・ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団、安達郡大玉村)が、日本オートキャンプ協会による本年度のオートキャンプ場評価で、最高の「五つ星」の認定を受けました。

全国112カ所のうち五つ星はフォレストパークを含め8カ所。立地条件と環境、施設と設備、管理とサービスなど約60項目について審査し、ランク付けされたもの。

今回の審査では、特に自然観察会など自然に親しむイベントの開催や利用者によるごみ減量化など環境保全活動など、ソフト事業への取り組みが施設管理とともに高く評価されました。

最高評価☆☆☆☆☆
オートキャンプ場